

2024年2月18日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒317番 (SK 姉)

『恵みの主は』

聖書⇒詩編 18 編 2~3 節 (KH 姉)

『主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。

主はわたしの岩、砦、逃れ場／わたしの神、大岩、避けどころ／わたしの盾、救いの角、砦の塔。』

礼拝讃美歌⇒141番 (旧 206 番)

『千歳の岩よ』

聖書⇒詩編 147 編 11 節 (TM 兄)

『主が望まれるのは主を畏れる人／主の慈しみを待ち望む人。』

聖書⇒詩編 50 編 15 節

『それから、わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう。

そのことによって／お前はわたしの栄光を輝かすであろう。』

聖書⇒イザヤ書 41 章 13 節

『わたしは主、あなたの神。あなたの右の手を固く取って言う／

恐れるな、わたしはあなたを助ける、と。』

(祈)

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 2 章 6~11 節 (SK 兄)

『キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与え

になりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。』

(祈)

聖書⇒イザヤ書 53 章 12 節 (ES 姉)

『それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受ける。
彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。
多くの人の過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。』

聖書⇒ルカによる福音書 22 編 37 節

『言うておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれていることは、わたしの身に必ず実現する。
わたしにかかわることは実現するからである。』

聖書⇒ルカによる福音書 23 章 32~34b、39~43 節

『ほかにも、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。

〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。』

十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れぬのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときは、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた。』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いな

さい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、
主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒150 番 (旧 63 番)

『冠受けて』

《建徳》

聖書⇒マタイによる福音書 7 章 21~29 節 (HK 兄)

『わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。』」「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 12 章 1~2 節

『こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしてお自分を立て直し、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。』

(祈)

聖書⇒レビ記 19 章 14、33 節 (KH 兄)

『耳の聞こえぬ者を悪く言ったり、目の見えぬ者の前に障害物を置いてはならない。
あなたの神を畏れなさい。わたしは主である。』

あなたたちのもとに寄留する者をあなたたちのうちの土地に生まれた者同様に扱い、自分自身のように愛しな

さい。なぜなら、あなたたちもエジプトの国においては寄留者であったからである。わたしはあなたたちの神、主である。』

聖書⇒マタイによる福音書 22 章 34~40 節

『ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。』

礼拝讃美歌⇒500 番 (KH 兄)

『弱き者よわれに全て』

《建徳要旨》